

安心・安全・新旧仲良く 文化的な町づくりを

自治会長 人見良一

明けましておめでとうございます。令和4年は雲一つない青空で始まりましたが、昨年を振り返りますと、新型コロナウイルスの蔓延により平穏なものではありませんでした。医療のひつ迫という思いもよらない事態になったものの、12月には東京の感染者ゼロも視野に入りかけたと思えた頃、新しい爆発的感染力のオミクロン株の出現によって、今年も余談を許さない不穏な幕開けとなっていました。

しかし、ワクチン接種は有効です。これからもワクチン接種（医師の指導に基づいて）マスク・三密を避ける・手洗い等、今までと同じ努力で極力感染を避けましょう。明るい話題と言えば、学園町の入口、いこいの広場の隣に4月、「まなびの森保育園」が開園したことです。小さなお友達が道を仲良くお散歩している姿に出会えるのは、とても嬉しいことです。

また例年通り「かわら版」の87号から92号が、浜名編集長の元無事発行できました。「ウェルカム学園町」では転入された方を紹介、また自由学園の卒業生平川冽氏の父上で、朝の連続テレビ小説『カムカムエヴリバディ』のモデルとなった故平川唯一氏も紹介する等、その他多くの住人にスポットライトを当ててくれました。

なお自治会ではサークル活動にわずかですが活動費を応援しております。体操などのサークル活動がありましたら、申し出て下さい。そして自治会員のご家族の赤ちゃん誕生・小学校入学をお知らせ下さい。記念品をお届け致します。昨年はコロナの影響で自治会の活動がほとんど出来ませんでした。今年は何とかやりたいと思っております。では、今年が皆様にとっていい年になりますよう、お祈りいたします。

今年もかわら版を よろしくお願ひします



今年も学園町在住のペーパークラフト作家・ごとうけいさんによる干支の作品をお届けします。2022年の干支はトラ。「干支の寅に、厄除けのお守りとして神社で授けられるお正月の縁起物「破魔矢」をあしらいました。魔を祓って福を招き入れ、良い年となりますように。

2022年は残念ながら今のところ個展開催の予定が立っておりません……。まずは新型コロナウイルスの終息を祈るばかりです」とごとうさんはコメントしています。

学園町も雪化粧

1月6日（木）、南関東は大雪に見舞われました。東京都心では積雪が10センチを越え、これは2018年以来4年ぶりのことでした。

また、冷え込みも厳しく、朝より日中のほうが「極寒」になりました。例えば、都心では正午は1.5度、13時は0.0度、14時6分には氷点下0.4度でした。翌7日も冷え込み、最低気温が氷点下3.5度と4年ぶりに氷点下3度を下回りました。

学園町もすっかり雪化粧。庭も道路も屋根も樹木も白い雪に覆われました。ある住宅の庭には、幼児が作ったかわい雪だるまが微笑んでいました



学園町の風情

医師 森 武生

最近コロナウイルスの感染で世の中騒がしい。でも、かつてのスペイン風邪や最近のインフルエンザのように、とにかく行き過ぎてくられることを家でじっと待つ以外になく、もうすぐタミフルのような経口特効薬が出てくれば、もっと落ち着くだろう。

とにかく、じっとしていい子にしていれば死なないということになってきたのだから、暖かくなつて、桜が咲くのを待つばかりで、おたおたしていても始まらない。ウイルスの方もアルファやデルタと違って、彼らもありヒトと徹底的に生きるか死ぬかをする、生物の種保存の観点からやばいことに気付いたようである。学園町の通りもデルタ株の最盛期に比べると、穏やかになつて、かつての落ち着きを取り戻している。

今から100年近くも前に、この学園町の土地が開かれたとき、一体どのようなところだったのだろう。今振り返ってみると、自由学園の位置は、ひばりヶ丘駅(當時は田無町駅)とは一寸ずれたところにあるような気がする。学園の正門から駅までは、はじめはまっすぐな広い道なのに、駅に近づくとつれて妙にねじれてきて、やがて南口のロータリーがいよいよやながら形成される。まっすぐな道の部分は、区画整理されて、1

区画250坪、成城学園町などに勝る街路が形成されている。

しかし駅に近くなると、統一性はどんどんなくなってくる。例のごとく地主連中がごねて、土地を手放そうとしなかったためか？25年前は連れ込みホテルと西友と、パルコと銀行とパチンコ屋が軒を連ねる、いかにも郊外駅であったが、この数年で少しはまとまりめいたものが出てきたようではあるし、北口は少しましなロータリーと雑居商店街が軒を連ねる。

この駅前の無秩序と自由学園の周りの区画の差はいかにも統一性を欠く、電鉄会社の無理念の開発の所産のように思える。今になって、何とか格好をつけようと努力しているようだが、所詮無駄のようだ。しかし文句ばかり言っても始まらないので、この町の自慢をしよう。

学園正門の前から横に、4本のまっすぐな道がとおり、縦には5本のやや曲がった道が通る。だいたいの基本が一区画250坪のようだが、最近では遺産相続に基づいて区画整理のために100坪以下に分画されその中央に私道が通つて、やや哀れな姿になりつつある。かくいう我が家もそんな新住民なのだが、可及的に緑と植木は残した。あとから移り住んで、この地域の緑は武蔵野の原や、雑木林が

残ったと思っていたが、そんなことはなくて、あとから植林した松や桜が育ち、垣根も住民が苦労して育てたものと聞いて感心した。

もう半分なくなっているメタセコイヤの巨木も、いまは亡き大島桜も住民の努力の証だったのである。樹は切つてしまつたら100年は生き返らない。我が家の敷地とその隣にある、辛夷の大木や、巨大な2本の山桜とソメイヨシノと百日紅も梅もみんなかつてここに住んだ人たちの保存の努力のたまものであり、そのうえ我々が浦和から持ってきた源平梅と栢植と蠟梅が香りと花を添えてはいるがやや稠密になりかけている。心とられて、気に入っているのだが、心懸かりは、一体あとどれだけこれらの樹々が生きて行つてくれるのだろうかという危惧である。

わずか25年でこんなに変わつてしまつたと思うと、あと25年でまるで趣を変えてしまうこともあるだろうと思つてしまう。段々若い人が減つて年寄りの一人住まいが増えてきているようだが、この町と街区の風情を何とか残していってほしいように、こんなコロナの時こそ、町の自治組織の中に若い人たちが巻き込み、みんなと一緒に学園町というこの得難い街の雰囲気大事に残していきたいものだ。もうすぐ辛夷のつぼみが膨らみ、小鳥たちの猛攻に耐えながら、やがてその可憐な白い花を咲かせてくれるだろう。みんな守つて

ゆきたい。

花だより⑭
春は枝物が芽吹く季節です
立川まり



まだまだ寒いですが、市場では春らしい花が少しずつ出るようになってきました。花物では球根系の花、チューリップ、ヒヤシンス、ランキユラスなどが多くなつてきて春を感じさせてくれます。また、春は枝物が芽吹く季節で切り花と合わせて豊富に使える時期でもあります。

桜、こでまり、雪柳、桃、ミモザ等々いろいろのものが出てきます。バラやカーネーションなど季節外でも出回っている花はたくさんありますが、これらの花や枝物は一年で出回る季節が限られます。球根系の花を晩秋に庭に植えておく方もいると思いますが、庭で咲くのは少し先になります。チューリップやアナモネは暖かい日差しを浴びると大きく開きますが、夕方暗くなるとまた閉じます。とてもかわいらしいので試してみてください。玄関など涼しい所に



置くとき長めに楽しめませう。

枝物では2月中旬から下旬に桃の節句に合わせて桃がたくさん出てきます。毎年ひな祭り用に桃を使ったアレンジを多く作りますが、桃の花は触るとぼろぼろ落ちたり、つぼみが黒くなつて咲かなかつたりと扱いが難しい花です。お求めになる時は、蕾がふつからしてきれいな色を選んでください。風の当たらない日差しの暖かな所に置くと徐々に咲いてきます。

そしてとても人気な枝物がミモザです。ミモザは出回る期間がとても短いのですが、リースやスワッグを作つて、そのままドライフラワーにすれば、少しずつ変わっていく様を楽しみながら長く飾れます。こちらは完全に咲いたものより、きれいな黄色の蕾が少し膨らんでいるものを購入すると長めに楽しめます。この時期だけの花たちをお楽しみください。お問い合わせは立川さん(フロールライフ)042-4238646

●地震と火災に備えて●
 学園町で一番こわいのは
 地震関連火災です

一日と日が長くなってきましたが、まだまだ寒さが厳しい日が続きます。というより、いよいよ1年で一番火災件数が多くなるシーズンがやってきました。前号で東久留米市防災防犯課の井上卓課長補佐と松本朋篤主査のインタビューを短く掲載しましたが、「学園町では地震が起きて土砂崩れの心配はなく、もちろん津波もありませんが、一番こわいのは地震関連火災です」と語っていました。その地震関連ですが、1月15日には南太平洋の島国トンガの海底火山が大噴火し、22日には日向灘でM5.0の地震が発生、宮崎県と大分県で震度5強を記録するなど、気なる異変が続いています。

前号でも触れましたが、学園町は高齢者が多く、地震による火災で逃げようと思っても家具が転倒して外に出られないといったケースも起こることが予想されます。そこで、今回は火災への備えも含めた「地震に対する10の備え」を

紹介します。コロナ禍で家にいる機会が多くなって今こそ、実施してみたいかがでしょうか。

●身の安全の備え

1. 家具類の転倒・落下・移動防止対策をしておく
2. けがの防止対策をしておく(食器棚や窓ガラスなどに飛散防止措置をする。停電に備えて懐中電灯をすぐ使える場所に置く。散乱物でケガをしないようスリッパやスニーカーを身近に準備する)
3. 家屋や塀の強度を確認しておく。

●初期対応の備え

4. 消火の備えをしておく(消火器の準備や風呂の水のくみ置き)
5. 火災発生の早期発見と防止対策をしておく(火災の早期発見のために住宅用火災警報機を設置する。普段使用しない電気器具は差し込みプラグをコンセントから抜いておく。火災の発生を抑制するため感電ブレーカーなどの防災機器を設置しておく)
6. 非常用品を備えておく(非常用品は置く場所を決めて準備しておく。スマートフォンの予備バッテリーなど必要な電源を確保

しておく)

●確かな行動の備え

7. 家族で話し合っておこう(地震が発生した時の家族の役割分担を決めておく)
8. 地域の危険性を把握しておこう(自治体の防災マップ等で地域の危険度を確認しておく)
9. 防災知識を身につけておこう(防災行動力を高めおこう(防災訓練に参加して応急救護、通報連絡、避難要領などを身につけておく)

ち揺れを感じたり、緊急地震速報を受けた時は身の安全を最優先にすることが重要。丈夫なテーブルの下や「物が落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」「空間に身を寄せ、揺れが収まるまで様子を見ることが肝要です。そして、発生直後は

1. 落ちついて火の元確認、初期消火
2. あわてた行動けがのもと
3. 窓や戸を開け、出口を確保
4. 門や塀には近寄らないことを合い言葉に行動しましょう。

C L I P B O A R D

《南部地域センター》

★なんぶまなぶシリーズ
 《1》[ヨガ教室関係①～⑤]
 ①「夕方YOGA教室」(金曜クラス)
 ・2月11日(金)・2月18日(金)
 ・3月4日(金)・3月11日(金)
 ・3月18日(金)
 17:30～18:30 集会室
 ・参加費:500円(当日払い)
 ・定員:10名
 ・持ち物等 動きやすい服装・首にかけられる長さのタオル・飲み物
 ・講師:ヨガインストラクター
 健康運動指導士 中村陽子

②「ヨガ男塾!」
 ・2月11日(金)・2月18日(金)
 ・3月4日(金)・3月11日(金)
 ・3月18日(金)
 19:00～20:00 集会室

③「ヨガ教室」
 ・2月13日(金)・2月20日(金)
 ・3月13日(金)・3月20日(金)
 1部 11:30～12:30 集会室
 2部 13:00～14:00 集会室

④「健康体操」
 ・2月13日(金)・2月20日(金)
 ・3月13日(金)・3月20日(金)
 14:30～15:30 集会室

⑤「夕方YOGA教室」(火曜クラス)
 ・2月15日(火)・2月22日(火)
 ・3月1日(火)・3月8日(火)
 ・3月15日(火)・3月22日(火)
 17:30～18:30 集会室
 ※上記②、③、④、⑤の【参加費】、【定員】、【持ち物等】、【講師】については、いずれも①と同一。

《2》ヨガ教室以外のイベント

★ベビーマッサージ
 ・2月14日(月)・3月14日(月)
 10:00～12:00 和室1・2
 (当日払い・オイル代込)
 ・参加費:2000円
 ・講師:飯岡祐子
 ・定員4組
 ・生後2か月～1歳前後の赤ちゃんとママさん・妊婦さん
 ・持ち物 バスタオル・飲み水

★「バクさんとその仲間と♪音楽と」
 ・2月27日(日)・3月27日(日)
 開場 13:00
 13:15～15:00 講習室
 ・定員 40名・参加費 500円

★60歳からの音楽で脳トレ体操
 ・2月28日(月)・3月28日(月)
 10:15～11:30 講習室1
 ・定員10名・参加費1000円(当日払)
 ・持ち物等 タオル・飲み水・動きやすい服装・スニーカー

★妊婦さんとママのための～こころからのセルフケアレッスン～
 ・2月28日(月)・3月28日(月)
 10:00～11:30 和室1・2
 ・定員:8名(親子参加は4組まで)
 ・参加費:500円
 ・講師:ひばり maman

・対象:
 妊娠中の不安な気持ちを共有したい方
 子育ての悩みを共有したい方
 マタニティライフをナチュラルなケアで過ごしたい方
 ・【2月、3月のテーマは検討中】

※各イベント問合せ
 南部地域センター
 (指定管理者(株)セイウン)
 042-451-2021
 Mail Higashikurume_nanbu@S-seiun.co.jp

《自由学園》

■自由学園幼児生活団幼稚園
 園庭開放について
 日時:
 ◆2月24日(木) 10:00～11:00
 ◆3月3日(木) 10:00～11:00
 ◆3月17日(木) 10:00～11:00
 会場:自由学園幼児生活団幼稚園
 ※雨天時は自由学園みらいかんで実施します。
 定員:各回10家庭
 お申し込みはHPから受け付けます。
 多くの方のお申込みお待ちしております。

■自由学園初等部
 オンライン学校説明会について
 日時:
 ◆2月15日(火) 10:30～11:30
 ◆3月8日(火) 10:30～11:30
 お申し込みはHPから受け付けます。
 多くの方のお申込みお待ちしております。

■自由学園男子部・女子部
 春の体験教室について
 日時:3月26日(土)
 会場:自由学園男子部・女子部
 男子部・女子部中等科・高等科入希望の方へ様々な体験教室を行います。
 ※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、開催方法に変更がございます。
 詳細は学園HPからご確認ください。

■リビングアカデミー(LA)
 来年度の学生募集について
 下記日程で来年度の学生募集を目的とした説明会を予定しております。
 日時:2月12日(土) 14:00～
 会場:自由学園記念講堂
 申込:リビングアカデミー事務局へ
 お申し出ください。
 ◆電話:042-428-3879
 ◆メール:la@jiyu.ac.jp

※新型コロナウイルス感染拡大の状況により変更する場合がございます。

※上記催しについて、詳細は自由学園のホームページに掲載しております。
 ※お問合せ先:自由学園広報本部
 TEL:042-428-2122 e-mail:kh@jiyu.ac.jp
 URL:http://www.jiyu.ac.jp

学園町のみなさんと「つながりたい」 交流を通して自治を考える

自由学園高等科 森元斗

私たちは学園町一丁目にキャンパスがある自由学園男子部、女子部高等科3年生です。私たちは「自治」を掲げながら生活しており、例えば、毎日の食事を当番制で作り手すること、キャンパス内の清掃、養豚、学校菜園で育てたものの販売や利用、学校行事(体操会・美術展など)の生徒中心の運営、自治寮での生活と、自分たちの生活を自分たちで作るといふこと日々学んでいます。

その中で、私たちは自由学園で大切にしている「自治」ということを考えたいと思って集まったグループです。

この自治を考えるために集まったグループは、昨年私たちが高等科2年生の時にできました。学園生活の責任を担う最高学年になるにあたって、今まで以上に私たちが自治を行うためにはどうすればよいかをテーマとして考えて活動してきました。

その中で、学園内だけでなく地域にも目を向けて、私たち自由学園生も、もつと地域の一員として力を出したい、そして、あたたかい地域づくりに貢献したいと考えようになりました。すなわち、学園町にお住いの皆様と良いつながりを築きたいと思ったのです。



このように考えたきっかけは、もつと自分たちが住んでいる地域のことを知りたいと思った事です。自由学園では自治生活の一環として一部の生徒はキャンパス内の寮で生活しています。同じ地域に住んでいるながら、地域のことや、地域にお住まいの方々のことをほとんど何も知らず、交流もほとんどないので少し寂しいなと感じていました。

また、私たち学園生は、今まで学園内だけを自分たちの社会として考えているという面がありました。創立者の言葉の中には学園のことを「それ自身一つの社会として生き成長し、そうして社会に働きかけつつある学校」といつているものがあります。その言葉を受けて私たちも学園内だけではなく、学園外にも力を出していく存在になりたいと、ずっと考えていました。そんなときに教師の方から、学園の外にも働きかけてみてはどうかという提案を受け、迷わずそのために力を尽くしたいと思いました。学園という狭い環境だけでなく、もつと自分たちの社会を広げ、その中でも自治を行える人になりたいと思っています。

そのためにできることとして、私たちが学園内では発揮しきれない力を使得って地域に貢献していきたいと思っています。

具体的にやりたいことは、まずは地域の方々から自由学園のことを知ってもらおうという事です。実際に自由学園のキャンパスに来ていただいで、どんな生活をしているのか、自由学園とは一体なんなのかなどを紹介したいと思っています。そのうえで、私たちから地域の皆様のお力になれるよう、お掃除やスマートフォン講習会、他にも私たちにできる事、ほかにも交流の場を作り、お話会や自然観察会を行うなど、自由学園と地域のつながりを深めていきた

いとも思っています。

今はコロナ禍で様々な障害がありますが、少しずつでも交流を増やし、地域の皆様と学園生が、すれ違ったらお互い挨拶のしあえるお隣さんのようなあたたかい関係を築いていきたいです。

私たちが地域の方々と共にやりたいと考えていることは、私たちが学生にとって大きな学びになると思っています。地域の方々のご協力の上で得た学びを通して地域に

自由学園生徒がボランティア受賞 ホームレスの人にぎり配付

「コロナ禍の社会のために何か役に立つことはできないだろうか」――。2020年1学期、自由学園の男子部高等科2年生(当時)の中村侑人君が、呼びかけて始まったのが、池袋のホームレスの人に、おにぎりを作って配るとい活動でした。

有志の生徒が学園の台所でご飯を炊いておにぎりを150個作り、特定非営利活動法人「TENOHASHI」と認定NPO法人「世界の医療団」の支援で、2020年8月18日夜、池袋の公園などホームレスの人が寝ている場所に行つて配りました。その後は、月に1回程度、これまでに16回おにぎりの配付しました。また、食材の米を寄附してもらったため、活動も生徒自ら行いました。

当初は男子部の生徒数人の活動

ために力を出していく、そのようなサイクルが学園町にあつたら良いなと考えています。

そのために、地域の皆様に学園生のことを良く知っていただき、私たちが頼りにしていただけたらと思います。その環境は私たちが学びを得る場所を作ることにつながります。どうかご協力よろしくお願いたします。地域の皆様からも、ご意見を頂けたら嬉しいのです。

だったのが、今は女子部も巻き込み中高の多くの学年の生徒が参加するほどになりました。

「つなげる輪」と名付けられたこの活動が、このほど「ボランティア・スピリット・アワード2021」の最高賞「文部科学大臣賞」を受賞。また、参加者同士の推薦により決まる米国ボランティア親善大使の一人に、中村侑人君(現在3年生)が選ばれ、5月に渡米し、全米表彰式に参加することになりました。

中村君は「今後も自由学園から継続して活動が続くように、さらなる発展を求めて行動しようと考えています。再び新たなメンバーと共に次ぎにできることを探し、行動する。これが僕らの次の課題、目標です」と話しています。